



みんなで創り上げることの大切さ

校長 三浦利信

令和6年度の教育活動がスタートして1ヶ月が過ぎました。放課後には、新入部した1年生が生き生きと活動している様子が見られます。

最近、「チームビルディング」の言葉を耳にします。一昔前は「チームワーク」の言葉が使われていました。5月10日には前期の生徒総会も終わり、羽村一中の生徒たちは「誰にも優しい学校」を目指しています。明確な定義は分かりませんが、「チームワーク」では、構成メンバーが協力しようという意識をもつことに加えて、「チームビルディング」では、構成メンバーが主体性をもって行動することとされています。チームビルディングもチームワークも共通する目標を達成するために構成メンバーが努力をする点では同じですが、チームビルディングではメンバーが主体性をもち、それぞれが違うスキルや能力を最大限に発揮できるような組織づくりをすることを目指しています。

チームビルディングを進めることで、チームのパフォーマンス向上や関係性の強化、目的意識の明確化ができるとも言われています。クロネコヤマトの元会長の小倉昌男さんは、「数学の理論では1+1は必ず2になる。だが、経営の論理では必ずしもそうとは限らない。1+1が3になることもあれば、1にしかないこともある」と話をしています。中学生の段階で、主体性をもってチームビルディングをすることには限界はあるかと思いますが、ただ参加するだけではなく、より良い集団（チーム）を作るために、積極的に活動できる羽村一中生になってほしいと思います。

「みんなちがって、みんないい」

この言葉は、金子みすゞさんが書かれた詩「私と小鳥と鈴と」の中に出てくる一節です。この詩は、「人は、それぞれが、皆べつべつで、でもそれに優劣は無いこと、それぞれが、素晴らしいのだ」ということを書かれています。人は「価値観」と言って、物事に対する考え方がそれぞれ異なります。同じような考え、似た考え、ちょっと違う考え、正反対の考え、たとえ自分とは全く違う考えでも、相手がどう考えているかをしっかり聞くことが大切です。

今年度の羽村一中は、昨年度に引き続き、人と人とのコミュニケーションを大切に、「誰にも優しい学校」、「互いに認め合える学校」を目標に、教育活動を進めていきます。自分と違う価値観（考え）に出会うことは、自分を成長させるチャンスです。一人で考えていたら思い付くことが出来なかった考え方に、触れることができた訳ですから、それは素晴らしいことです。多様な考え方を知ることは、自分の価値観の幅を広げることにつながります。考え方だけではなく、いろいろな場面で、「人との違い」を受け入れ、楽しむことが出来る中学生に成長してほしいと思います。

一中あるばむ

学習や行事、部活動等に一生懸命に取り組む一中生の素敵な様子を紹介します。

遠足（１年生）

４月１１日

桜満開の晴れ渡った晴天の中、クラスの友達との交流もかねて、１年生が根がらみ前水田へ遠足に行きました。車道にはみ出さないように整列して、クラスの友達との間が開きそうになると小走りになってと、一年生の素直な姿を垣間見ることができました。途中、保育園児たちと合流すると「えーっ、かわいい！」と、一気にお兄さん、お姉さん顔になる姿はとても微笑ましいものでした。何万本もの色とりどりのチューリップに囲まれた生徒たちは、入学からの緊張が一気に解けたようにも思えました。時間通りに帰ってくることができ、校門で帰りを待っていた校長先生にも大きな声で挨拶をし、今後がとても楽しみな１年生です。



初めの一步

４月２４日



生徒会活動の一環として、毎年この時期に行われる「初めの一步」。各委員会等の代表者による説明を放送を使って行いました。朝学活が終わるやいなや、放送室が慌ただしくなり、何人もの生徒が各々手元の紙とにらめっこして、発表の練習をしていました。一方教室を見に行くと、これから聞こえてくる声をじっと静かに待つ姿があり、先輩から後輩へ、こうやって伝統は引き継がれていくんだと一中生の純粋さや真面目さを感じることができました。そして再び、放送室へ向かうと、放送室のドアの前にはきちんと１列に並べられた上履きがありました。こ

ういう先輩の一面もきっと引き継がれていくのだろうと、心が温くなりました。

スポーツ交流 in 横田ミドルスクール

４月２２日、２３日

男女バスケットボール部の２年生３年生がスポーツ交流のため、横田基地内にあるミドルスクール（中学部）へ行き、一緒にバスケットボールの練習やミニゲームを行いました。生徒は最初こそ「英語しゃべれるかな」と何人かで固まって移動していたのですが、それもつかの間、あっという間に打ち解けて、ハイタッチをしたり、日本の生徒からは“ナイスシュート！”“グッドグッド”といった言葉や、ミドルスクールの生徒からは“イチ、ニー、サン…”といった日本語が聞こえてきました。お互いの文化を紹介する文化交流とはまた違い、スポーツ交流は一気にお互いの距離を縮められるものだとして改めてスポーツのもつ良さを実感しました。この交流は外務省が企画したのですが、今後はどんな交流が増えるのか楽しみです。



～学校メールへの登録とデータの更新のご協力をお願いします。～

羽村第一中学校では、緊急連絡の手段として、学校メールの登録をお願いしております。まだ登録されていらっしゃらないご家庭や、今年度のクラス・出席番号を更新されていらっしゃらないご家庭は、早急に手続きをお願いします。クラスと出席番号の更新は、携帯等で学校メールの画面から手続きできますが、登録がまだのご家庭は、右記の二次元コードを読み取り、空メールを送信し、登録用メールを受信後、メール記載の URL よりご登録をお願いします。



学校認証ID
4612-9344